

CMS導入・選定ガイド

CMSとは？から選定ポイントまですべて網羅



SITE PUBLIS®

株式会社サイト・パブリス

01 CMSとは

02 CMSに対する誤解

03 CMSの選定基準・ポイント

04 サイト・パブリスのCMSの紹介

CMS

「コンテンツ・マネジメント・システム」の略称

Webサイト内のコンテンツ (テキスト・画像など) を管理するシステム



HTMLやCSSのような専門知識を必要としない



コンテンツを入力するだけでWebサイトを構築できる



CMS導入に向いているサイト



サイト規模が大きい
(ページ数が多い)

更新頻度が高い
(外部業者に都度依頼している)

**リアルタイムな
情報発信が多い**
(プレス/ニュースリリースなど)

管理部門が横断
(ページによって担当が異なる)

統一感を出したい
(デザイン性・ナビゲーション統一)

…など

CMS導入にあまり向かないサイト



**ページ数が少なく
更新頻度も少ない**

**1ページで完結する
ランディングページ**

…など



簡単にページが
作成できる



ページの公開が
自動化できる



複雑な階層を
シンプルにできる



デザインの一貫性を
維持できる



コンテンツを
復元できる

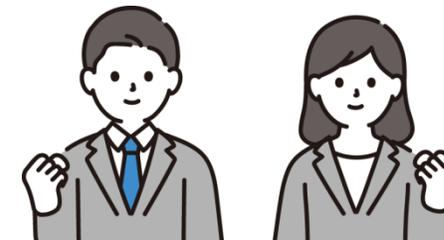


運用コストを
削減できる



スピード感をもって
情報更新できる

Web更新の
手間を減らせる



- ✓ Web更新の作業負担・外部委託費用を削減
- ✓ Webコンテンツの鮮度を保ちやすく、SEO対策にも有利

2010年頃から活用が増え始め、世界中に**800**以上の**CMS**が存在

オープンソース CMS

プログラムのソースコードが公開されているCMSで
多くの場合は無料で提供

- 世界中のプログラマーがカスタマイズを加えることでシステムが進化していく
- 機能拡張が行える多数のプラグインやモジュールも公開

主なオープンソースCMS



商用版 CMS

企業・ベンダーが開発したCMSで
基本的には有料で提供

- 企業や組織など、法人で運用されることを想定した豊富な機能を搭載している場合が多い
- Webサイト構築&運用時にベンダーサポートがありWeb担当者にとって安心して利用できる

目的・運用方法に合った
CMSを選ぶ必要性

オープンソース CMS

商用版 CMS



メリット

- ◎ 基本的には**無料で利用**
- ◎ **カスタマイズ自由度**が高い（要知識・スキル）
- ◎ **無料拡張機能**も豊富（プラグイン・モジュール）
- ◎ 世界中にユーザーがいる → **参考情報が多い**

- ◎ 組織での運用に必要な**承認・権限機能**がある
- ◎ **ベンダーサポート**を受けられる → 運用が安心
- ◎ アップデートや不具合は**ベンダーが対応可能**
- ◎ **運用支援**が充実（マニュアル・トレーニング）



デメリット

- △ ソースコードが開示されている
→ **脆弱性を狙った攻撃**などのリスクが高い
- △ アップデートや不具合は**自己責任で対応**
- △ 日本語のドキュメントが不十分（**英語中心**）
- △ 拡張機能・カスタマイズの**公式サポートなし**

- △ **初期費用・ライセンス利用料**が必要
- △ 導入規模（ページ数やユーザー数）に応じて
ライセンス利用料が**高額**に
- △ 機能拡張・カスタマイズは**追加費用**の場合も

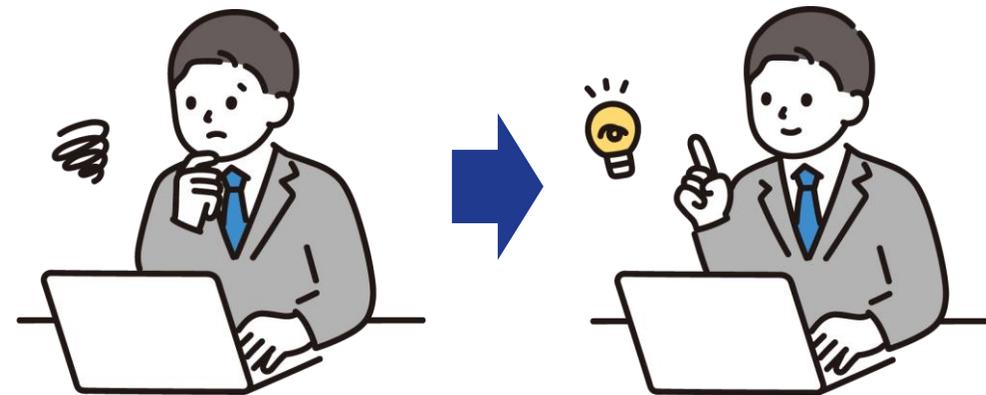
01 CMSとは

02 CMSに対する誤解

03 CMSの選定基準・ポイント

04 サイト・パブリスのCMSの紹介

CMS導入には様々なメリットがある一方
誤解が生まれている面もある



よくある5つの誤解

- CMSなら
- ? 誰でも簡単にWebサイトを更新できる
 - ? SEO対策ができる
 - ? Webサイトの運営費用を削減できる
 - ? 誰が作っても同じ
 - ? 集客が見込める

それぞれを
正しく理解して
対策を図ろう

誤解 CMSなら、誰でも簡単にWebサイトを更新できる

- CMSによっては、一般的なブログほど操作が簡単ではない → **機能・操作方法**を学習する必要
- はじめに**運用面も含めて設計**しないと、更新の手間が増大 & 更新フローが属人化・不透明化

はじめに、運用面も意識した
デザイン・ページ構成や
社内フローの設計が必要！



誤解

CMSなら、SEO対策ができる

※SEO=検索エンジン最適化 (Google検索などでの上位表示)

- CMSは構造上、**SEOに有利なサイト**を構築しやすい機能がある
- 実際には、コンテンツの強化・サイト設計など様々な**SEO施策**を考える必要あり

適切なSEO施策なしでは、
いくらCMSを導入しても
SEO効果は生まれない！

お客様に有益で分かりやすい情報や
コンテンツを定期的に発信！

最新情報の更新、見直し、
リライトなどを実施！

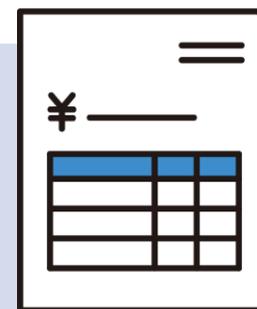


誤解 CMSなら、Webサイトの運営費用を削減できる

- 最初に運用設計ができていない場合、**活用しきれない**場合も (例：お知らせをアップするだけに)
- CMS導入効果が出てくると、**コンテンツや機能の追加要望**が社内から上がるケースも多数
- CMSのマイナーバージョンアップ・脆弱性の問題など、**不測の事態**に備える必要 (外部委託も検討)



どこまで自社で対応するかによって、
運営費用は大きく変わります！

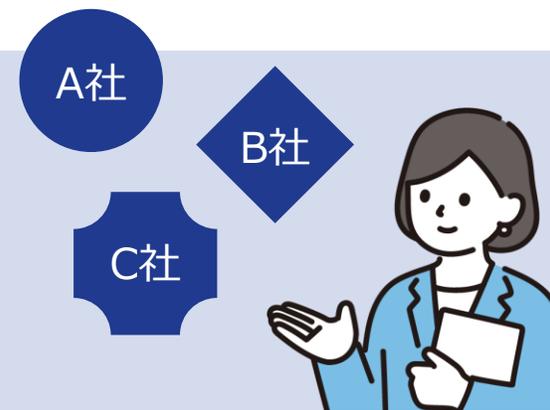


誤解 CMSなら、誰が作っても同じ

- ただ「Webサイトを作るだけ」ならば、どこの制作会社でもある程度のものを作れる
- お客様のもつ**要望を的確に把握し、それを実現する技術力**には差がある → **仕上がりは異なる**
- CMSによっては、**デザインの自由度に制限**が存在



制作会社を選ぶには、CMSの構築事例を精査したうえで検討が必要！



誤解 CMSなら、集客が見込める

- CMSを導入しても、それだけで集客にはつながらない
- CMSはあくまでコンテンツ管理ツール → どのように運営し、コンテンツを作成するかが重要

**CMSを使ってWebサイトを構築しても、
良質なコンテンツがなければ
サイトを使った集客への道は始まらない！**



01 CMSとは

02 CMSに対する誤解

03 CMSの選定基準・ポイント

04 サイト・パブリスのCMSの紹介

選定基準は様々あるので、**実現したい項目**に**優先順位**をつける



Webサイトの
規模 / 環境



HTML生成方法



カスタマイズ性



セキュリティレベル



サポート



ワークフロー
(承認権限の設定)



編集・運用の
しやすさ



費用感



優先順位は…?



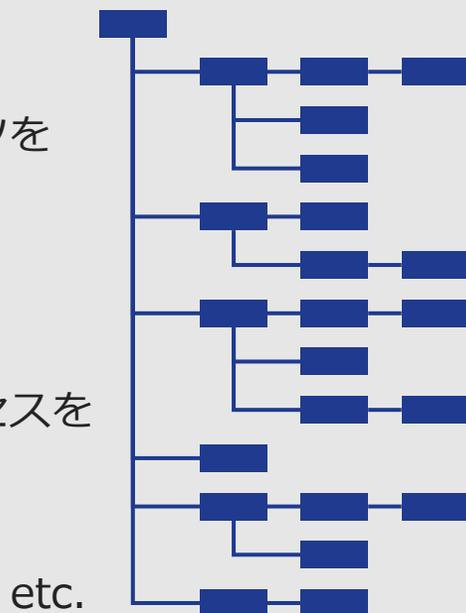
Webサイトの規模/環境

Check!

大規模サイト or 中・小規模サイト

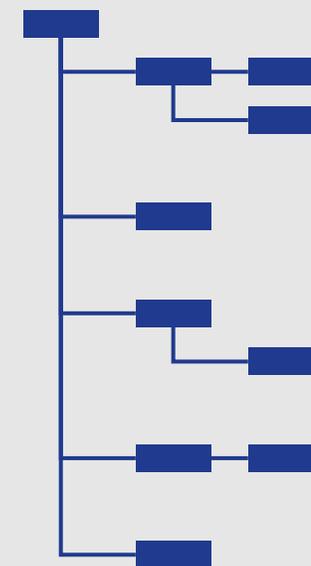
大規模サイトの場合

- 大量のページ・コンテンツを管理・運用しやすい機能
→高機能
- 閲覧者だけではなく管理者からの多くのアクセスを捌くことができる構成
→管理用と公開用のサーバの分離



中・小規模サイトの場合

- 限られたページを管理できる簡易的な機能
→最低限の機能
 - 管理者のアクセス数が少ない
→一つのサーバ環境だけで管理機能・公開機能の両方をまかなえる
- etc.



</> HTML生成方法

Check! 動的CMS か 静的CMS

動的CMSの仕組み



- アクセスしてきたユーザーに対し、**最適な情報を表示**
- ユーザーごとに**情報を出し分ける**サイトに適している
(例：会員登録サイト、ECサイト…など)

静的CMSの仕組み



- あらかじめ作成しておいたページを表示
(**情報が固定**のため、高セキュリティ & 高速表示)
- 幅広い人に**同一の情報**を表示するサイトに適している



カスタマイズ性

Check!

各CMSの拡張性の幅

サイトに表示する内容の
カスタマイズ性は？



会員情報

ログイン

運用の手間を削減する
新機能追加の自由度は？



例：トップページの
ファーストビュー画像
設定を簡単にする機能
↓
運用者は画像をアップ
するだけでOK …など

セキュリティレベル

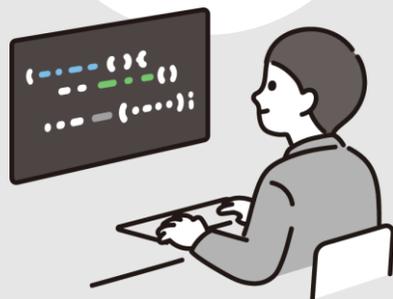
 Check! 高セキュリティ or 一般的なセキュリティ

商用版CMS =

高セキュリティ

- CMSの開発ベンダー側が脆弱性を定期的に検査
- 必要なパッチ提供など公式サポートが存在
- Web担当者にとっては対応の負担が少ない

基本的には
ベンダー側が
対応可能



オープンソースCMS =

一般的なセキュリティ

- 常に問題があるわけではないが、オープンソースのため脆弱性を狙った攻撃が近年増加
- コミュニティなどの最新情報を常にリサーチする運用が必要
- Web担当者にとっては負担あり

トラブルは
自社対応





サポート

Check!

公式サポートあり or 公式サポートなし

商用版CMS =

公式サポートあり

- CMSの開発ベンダーによる電話やメールでの公式サポートが受けられる(導入支援、運用支援)
- 運用に不安がある場合はプロのサポートが必要

ベンダー側が
手厚く
サポート



オープンソースCMS =

公式サポートなし

- 自由に使える反面、公式サポートはない
- エンジニアやデザイナーのコミュニティを活用して、最新情報を常にリサーチし対応することが必要

基本的に
自己解決



ワークフロー（承認権限の設定）

 Check! 1人で運用 or 複数人で運用 or 外部委託

Web担当者が 1人で運用する場合

特に承認フローを設けることなく
運用されているサイトも



複数人・複数部署で 運用する場合

ガバナンスを重視する大企業や
信頼が大切な公共機関・教育機関では
多重チェックのフローが重要



最終承認

外部の制作会社に 委託する場合

委託する業務の範囲によって
適切な権限付与が必要





編集・運用のしやすさ

Check!

直感的な編集が可能か & 日本語対応か

ウィジウィグ

WYSIWYG編集（見たまま編集）

- HTML・CSSを触らなくても、画面上で入力したテキストや挿入した画像・動画などが見た目通りに反映される
- Web担当者のリテラシーや編集スキルに依存せず、きれいなページ作成が可能



日本語対応・日本語マニュアル

- 海外で開発されているCMSの多くは、日本語の資料がない（特にオープンソースCMS）
- 管理画面は日本語対応でも、プラグイン（追加機能）やユーザコミュニティは英語の画面・やり取りが中心



費用感

Check! 本当に必要な機能・要件 & 予算感

CMS構築費用

+

CMS運営費用

+

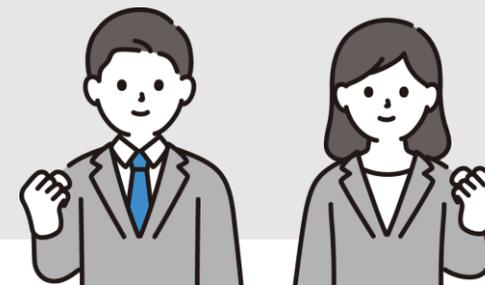
ライセンス費用

(商用版CMSの場合)

よくある失敗

- 大規模サイトなのに、費用を抑えて中小規模向けのCMSを使用
→ 運用・管理機能が不十分 → 業務負荷軽減のため、機能開発費用が増加
→ さらに、仕様を変更するたびに外部委託業者への依頼が必須に
- 中小規模サイト向けCMSで十分なのに、高額な高機能CMSを使用
→ サイトの規模感に合わず、CMS導入・運営の費用対効果が悪化

＼機能を絞って、必要な箇所に集中して費用をかけるのが◎

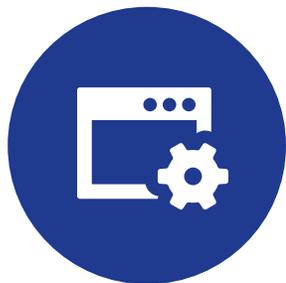


01 CMSとは

02 CMSに対する誤解

03 CMSの選定基準・ポイント

04 サイト・パブリスのCMSの紹介



2003年発売の純国産の
商用版CMS「SITE PUBLIS」

20年以上の実績

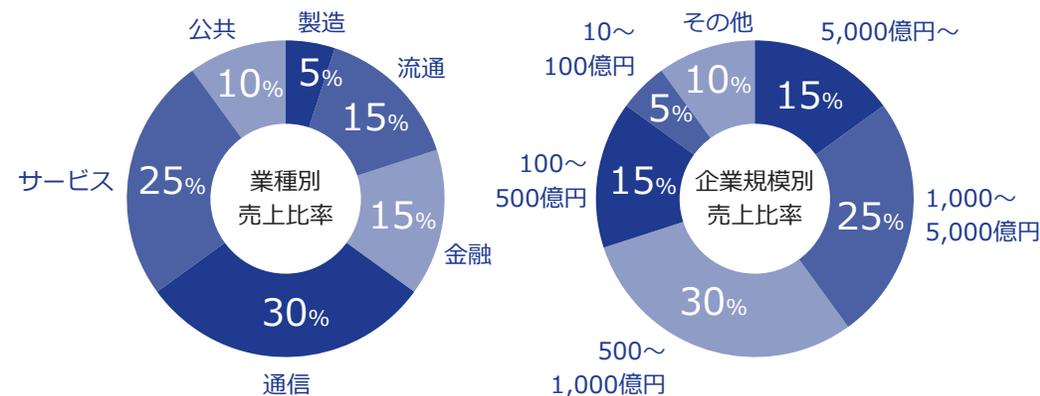


あらゆる業種・業態・会社規模に
対応できるラインナップ

導入
実績 **650**社・団体以上



自社で開発・保守・サポート



国産CMSとして20年以上培った信頼と実績

SITE PUBLIS® は、大手企業様、官公庁・自治体様など幅広い導入実績がございます。
純国産で20年にわたる実績を持つCMSは **SITE PUBLIS®** だけです。



一般社団法人
日本旅行業協会



高千穂大学
TAKACHIHO UNIVERSITY SUGINAMI TOKYO



巴工業株式会社



EmotionTech



人と技術で未来をひらく
大阪ガスビジネスクリエイト株式会社



HellermannTyton
ヘラマンタイトン株式会社



簡単操作（見たまま編集）

使いやすい操作感で、コーポレートブランドを崩すことなく
各拠点・部署・担当者が情報をタイムリーに更新可能



コーポレート・ガバナンス

承認フローも完備で、ガバナンスを強化した一元管理・運用が可能
※担当者ごとの権限の詳細な切り分けにより、情報管理が容易



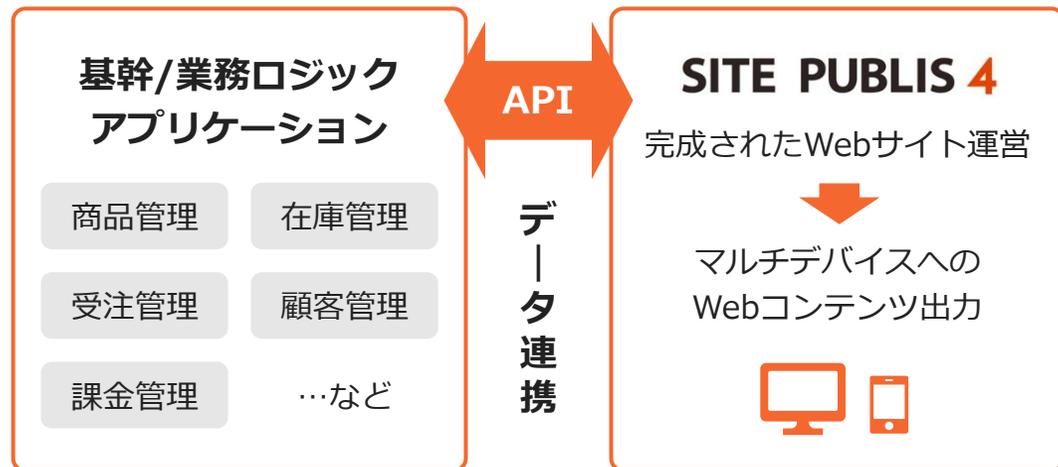
拡張性

全ての要素を「ブロック」にて構成しており、デザイン面でも、
外部との連携においてもブロック単位で拡張・追加が可能

大規模サイト向け

SITE PUBLIS 4

- 自社のプライベートクラウド環境やイントラネット環境などへインストールしてご利用可能
※クラウド環境とのセットサービスもご提供
- 大規模Webサイトの**運用効率性・開発生産性が向上**



中・小規模サイト向け クラウドサービス

SITE PUBLIS Connect

- CMSとクラウド環境がセットのサービス
- スピーディな基盤構築、**スケジュール短縮**が可能
- ヘッドレスCMS機能により、登録コンテンツを有効活用

